

留学生活がスタートした当初私が考えていたことは専ら「日本とは違うとことがたくさんだ」という事ばかり。しかし、留学生活の中で文化の違いに触れ生活していく私の存在を考えるようになった。そしてそれは、異なる文化の真っただ中に私が存在し関わっていくことというのは、「文化交流」という仰々しい形容をしてもいいんじゃないかと考える結論に至ったのだ。たいそうなことを言っているようだが、実際は中日文化交流という授業に触発されて考えるようになっただけでもあるうえに、私が行動した範囲の物のみなので当然規模は小さい。

まず初めに、交通の違いから述べていこう。私が中国の交通事情で初めに驚いたのは、クラクションが日本とは比べものにならない回数聞こえることだ。中国に来るまでは、クラクションなど数回と聞いたか分からない程だったが、中国に来てからは日本では考えられない回数のクラクションを聞き、交通事情の違いをまざまざと実感させられることとなった。中国では普段からタクシーを使うのがポピュラーな点もさることながら、その運転も日本とは大きく違っている。日本と比べ運転がとて乱暴なのだ。助手席に乗り込むとその荒い運転にひやひやすることが多い。渋滞に少しでも隙間を見つけると事故がなんだと言わんばかりに割り込もうとアクセルを踏む。しかしそんなことがよく目撃される割には事故が起こったところを見たことがないのだ。そうそう起こる事ではないにしろ、そこには中国なりのマナーがあり、人々はそれを守っているだけであり、その意識の違いはないのだ。

次に生活環境についてだ。まず最も初めに気が付いたこととして、やはり空気が違うことが挙げられる。それは「中国のにおい」と形容するのが最もしっくりくる空気が漂っているということだ。これは後でわかったことだが、その匂いに最も近いにおいは、五香粉に代表されるような中華風スパイスのようなにおいによく似ていることが分かり、中国の人々の暮らしに裏付けられた違いを発見できたと一人腑に落ちたように感じた。関連して食事にもおおきな傾向の違いが見られる。上記の『中国のにおい』として五香粉を挙げたように、様々な料理に多種多様なスパイスを使用していることからか、全体的に油分が多く、日本人には辛く感じるのだ。「味は水に溶け、香りは油に溶ける」というように香辛料を使う文化の発達した中国料理が、香辛料と相性のいい油を多用するようになるのは当然の理。出汁をとる文化が発達した日本人にとっては少々刺激的であるように感じた。

国が違えば文化も違うのは当たり前だ。交通ルールによれば国民性が関係し、国民性は歴史に関係する。空気汚染は工場や自動車などの機械産業が関係し、機械産業は中国の経済成長に関係する。これらのように中国文化には古代から近代までの中国の積み重ねの歴史が認められ、日本との違いを見つけるのとても有意義であった。